



中田 エミリー × 飯島 素



※安全を確認の上、防護メガネをはずして撮影しています。

2018年2月取材 PR

か、水を送るポンプの電源はどう確保するかなど、状況をこれ以上悪化させない方法を検討していました。しかし、道路をふさぐガレキなどによって、消防車がすぐに駆けつけられなかったり、放射線量の高い構内で作業する人が手配できないなど、計画を立てても、肝心なところがあるように実行できず、ただただ焦りと不安で一杯でした。

中田 そんなことが起こっていたのですね…

飯島 はい。そのときに所員の対応力の不足を目の当たりにし、どんな場面でも、自分たちの力で乗り越えられるようにしなければダメだと痛感しました。その後、柏崎刈羽に配属になり、今の部署を立ち上げ、対応力を鍛えるためにはどうしたらいいか、訓練内容を検討するところから始めました。

中田 今はどうなんですか？

飯島 今では、ほとんどの所員が訓練に参加していて、その習熟度の向上もさることながら、安全性を高め続けるためには、設備の充実はもちろん、それを確実に動かすための対応力が重要だという意識が発電所全体で持つことができるようになりました。

中田 へえ、そこまで意識が変わったのですね。

日々の訓練に取り組むために必要なことって、何ですか？

中田 先ほど、所員さんがもしもの時のために、免許や資格を取っているというお話を伺いましたが、飯島さんも何か資格を持ってらっしゃるのですか？



中田エミリー
新潟出身。NST新潟総合テレビを経て、現在フリー。
その明るいキャラクターで活躍中の人気のアナウンサー。

飯島 高所作業や溶接の資格、建設機械や大型車両、フォークリフトの免許などを取得しています。

中田 わあ、そんなにたくさんお持ちなのですね！すごいですね。

飯島 発電所には、もっと難しい資格を持っている所員もたくさんいます。でも、資格があることが大事なのではなく、免許や資格を取ること、今まで自分たちでできなかった作業や扱えなかった車両を動かせるようになること。そして、それによって、安全対策を確実に実行できるようにしていくことが何よりも重要です。常々、メンバーには、そういう意識を持ってもらうようにしています。

中田 ゼロから始めて、ここまでできるようにするのは、簡単ではなかったのですよね？

飯島 もちろん、うまくいかないことも多かったですが、そんなときは、仕事終わり大好きなお酒が私を慰め、勇気づけてくれました。新潟には、おいしい日本酒がたくさんありますからね。

中田 では、次は咧酒師の資格にチャレンジですね(笑)。でもお酒はほどほどに。

飯島 そうですね。新潟の皆さまに安心していただける発電所にするためには、まだまだやらなければいけないことがたくさんありますね。

中田 期待しています。

飯島 はい。がんばります。

一つひとつ積み重ねていく。自分たちが守るといふ決意を。

みなさん、こんにちは。中田エミリーです。私たちの住む新潟には、原子力発電所があります。東北地方太平洋沖地震のような大きな災害が起こっても大丈夫なのでしょうか？

そんな疑問を全部ぶつけてみようと思ってきた柏崎刈羽原子力発電所。これまで、万が一に備える様々な対策について聞いてきました。でも、設備がすごいのはわかったのですが、いざというときにちゃんと動かせられるのでしょうか？

対応力？強化？それって、どんなことやってるのでしょうか？

中田 飯島さん、今日は、少し厳しいことも聞かせて頂くかもしれませんが、よろしくお願ひします。

飯島 わかりました。なんなりと聞いてください。

中田 それでははじめに、飯島さんは、発電所でどんなお仕事をされているのですか？

飯島 私の仕事は、訓練の計画や教育など、いざというときの所員の対応力を強化することです。

中田 対応力？それはどういったことですか？

飯島 簡単に言いますと、事故が起こったときに、発電所の様々な設備を使って、迅速かつ的確に対応するための力です。福島第一原子力発電所の事故では、所員が重機などを動かすことができず、初期対応が遅れてしまいました。柏崎刈羽原子力発電所では、その反省から、所員が自ら免許や資格を取り、緊急時に使用する車両を操作したり、故障した場合でも自らの手で修理できるように、日々訓練を重ねています。

中田 え？ということは、事故の前は、そういうことができていなかったのですか？

飯島 はい。緊急時に使用する車両は、社外の協力会社に操作していただいていたし、不具合や故障の際は、メーカーに修理をお願いしていました。

もしものとき、発電所の設備をちゃんと動かせるんですか？

中田 それでは、もしもの時の対応が遅れてしまっても当然ですよね。それは、県民としてとても不安です。

飯島 はい、私も事故のとき、対応力が足りないことを痛切に実感しました。ですから、二度とあのようなの遅れを起こさないという決意のもと、私を含め、所員の対応力の向上に取り組んでいます。

事故のときの経験は、発電所を変えましたか？

中田 事故のときのお話が出ましたけど、飯島さんはあのとき、どこにいたのですか？

飯島 当時は東京本社に勤務していました。そして、事故が発生すると、以前福島第一で勤務していたこともあり、事故収束の検討にあたりました。

中田 それは、どんなことをされていたのですか？

飯島 原子炉を冷やす水をどこから調達する



緊急時の対応力を強化するために
どんなことをしているのですか？
教えて、林さん。

A はい、お答えします。柏崎刈羽原子力発電所では、様々な安全対策設備の強化や追加だけではなく、それを扱う所員の緊急事態への対応力を強化しています。

福島第一原子力発電所では、事故発生当初、緊急車両や重機を搬入する人員が確保できなかったことが、事故の初期対応を遅らせる原因となりました。その反省から、柏崎刈羽では、所員自身が重機などの特殊車両や機器の操作に対応できるように、必要な資格の取得や技能講習の受講を積極的に進めています。

その結果、昨年末現在での代表的な資格の取得者数としては、大型免許が154名、大型特殊免許が89名、大型牽引免許が86名、ガレキ撤去車技能講習受講者が68名になりました。

また、そうした資格や技能をいつでもいかせるよう、電源車の操作・消防車の注水・特殊車両の運転などの訓練を頻繁に行っています。昨年末までの実績は、延べ1万8100回になりました。

Q そして、それらの訓練を統合して行えるように、発電所全体で行う総合訓練を定期的に行っています。総合訓練は、事故の様々な状況を想定して行われ、その内容は、津波や地震だけでなく、航空機の衝突、竜巻、落雷など多岐にわたります。

さらに、所員が臨機応変に対応ができるよう、内容をあらかじめ知らせなかったり、明かりのない暗闇にしたり、突然通信を不能にするなど、リアリティのある訓練を実施しています。総合訓練は、内容を変えながら毎月行っており、昨年末までに73回実施しています。

このように柏崎刈羽原子力発電所では、訓練を繰り返すことで、様々なリスクに所員が対応できるよう力を強化しています。

総合訓練

東京電力ホールディングス
新潟本社
本部長補佐 林幹夫



東京電力新潟本社 検索 <http://www.tepco.co.jp/nigata/index-j.html>



東京電力ホールディングス 新潟本社
025-283-7461 9:00~17:00 (土日・祝日・年末年始除く)